

令和7年度 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
学位記授与式 式 辞

本日ここに、卒業生・修了生の皆さんが学位記を手にし、本学から新たな世界に巣立っていかれることに対し、本学教職員と在校生を代表して心からお祝い申し上げます。栃木県知事福田富一様をはじめ、ご来賓各位には、ご多忙の中本学の学位記授与式にご臨席を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、いま世界中では、さまざまな問題が山積しています。具体的には、エゴイズムに基づくナショナリズムによる分断と紛争あるいは戦争の問題、フェイクニュースや個人情報の漏洩などのソーシャルネットワークに関わる問題、慢性的貧困に基づく格差の問題、さらには生態系の破壊による環境汚染の問題などです。これらの問題は、現代のわが国においても直接かかわるものです。

こうした中で、本日みなさんに、私が最近読んだ論文と新聞を通して、二つのことをメッセージとして送りたいと思います。

一つ目は、AIと人間との今後の関係性についてです。これに関して、京都大学の「人と社会の未来研究院」の教授である広井良典（よしのり）教授をはじめとする研究グループが発表した「日本社会の持続可能性と政策提言に関する研究成果」という論文のなかで、興味深い指摘をしています。なお、この論文は、AIが多くのデータをもとに、日本の社会における「持続可能性」という観点から、2052年までの未来構想をシミュレーションしたものです。

この論文の中で、広井教授は、AIは「複雑な関係性」や「不確実性」を含むシミュレーションを行うという点において有効なツールであり、今後も着実に発展させていくべきであるが、一方で、いかなる事象や出来事が「重要」な事柄であるかを見定め、あるいは何がそもそも「問題」であるかのテーマ設定を行い、それを踏まえてAIが行う計算のベースとなるモデルを作り、意味づけ、価値づけ、そして未来社会の「構想」を行うのはあくまで「人間」であると述べています。さらに氏は、未来シミュレーションに関するAIと人間の「協働」という新たな関係性において、逆に人間による未来の「構想力」や「価値判断」の重要性が浮上し、人間固有の領域が明らかになり、その真価が問われる時代を今迎えているとも述べています。

これから皆さんが関わっていく社会は、まさにAIと人間の「協働」の時代であり、人間の「構想力」が一層求められ、何を価値判断の基準としていくかなどが益々問われてくることとなります。皆さんは、これらの力や問いを深く考えながら、ぜひAIとの「協働」、「共存」の時代を逞しく生きていってほしいと思います。

二つ目は、多文化共生社会を求める私たちにとってそれに逆行する今日のあ

る動向についてです。先月、興味深い新聞記事が目にとまりました。その記事は、現在のアメリカの大統領の言動に関するものです。具体的には、大統領が、「私に国際法など必要ない」、「私を止められるのは唯一、私の道徳心だけだ」、あるいは、ノーベル平和賞を取れなかったために「もう平和について純粋に考える義務があると感じない。」と言い切り、国内外に「自分ファースト」の政策を洪水のようにはき出していることに対して、筆者が、大統領を「独裁者」として批判しているものです。しかし、最後に筆者は、「世界最大の軍事力と経済力があるだけに、与える影響は計り知れない」と締めくくっています。

この記事を読み、私は、ある 80 年以上前の世界的に有名な映画を思い出しました。それは、1940 年に公開された同じアメリカの映画「チャップリンの独裁者」、英語のタイトルは「The Great Dictator」であり、ヒットラーを風刺したものです。最後のクライマックスで、チャップリンが演じる床屋 (barber) の演説がとくに有名です。その中で、チャップリンは、まず「狂気が世界を支配し、人類の自由が奪われた。憎しみの壁を築かせ殺戮へ向かわせた。独裁者たちは民衆を奴隷にする。」という言葉から始まり、さらに群衆に対して、「君たちには力がある。機械を作り幸福を生む力が、人生を自由に美しくすばらしい冒険にする力がある。民主主義の名の下に、その力を使おう」、「障壁を取り除き、強欲と不寛容を取り除くために立ち上がろう。」と訴えていきます。

このメッセージは、過去のことではなく現代のことでもあると思います。現代は、権力を持ったものに迎合し、またはマインドコントロールされ、いつの間にか、その巨大な力の中に飲み込まれ隷属していく危険性を孕んでいます。私は、数の力や権力による【奢れる者】に立ち向かえる一つは、多くの理性を持ち、寛容の精神を持った市井の人間の集合体のパワーではないかと考えています。地球的問題群を抱えている今日、多文化共生社会を目指していく 21 世紀において、みなさんには寛容の精神の下、想像力に満ちた智慧とムーブメントを起こしていく進取の気性をもって生きていってほしいと思います。

むすびに、刻々と変化する時代の中で、自主的・自律的に生きていく人間の育成を意味する「作新民」という建学の精神の下で学んだ皆さんが、価値創造力を発揮し、多くの人々と協働しながらネットワークを広げ、身近なところから主体的に行動して、今後さまざまな分野で活躍されることを祈念し、私の式辞といたします。

令和 8 年 3 月 15 日
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
学長 渡邊 弘